

広報

平成28年(2016)

9/1

2012号

しながわ

毎月1・11・21日発行

区制70周年特集号

品川区は平成29年3月に区制70年を迎えます

品川区ツイッター
アカウント/shinagawacity

※機種によっては正しく表示されない場合があります。



スマートフォン用

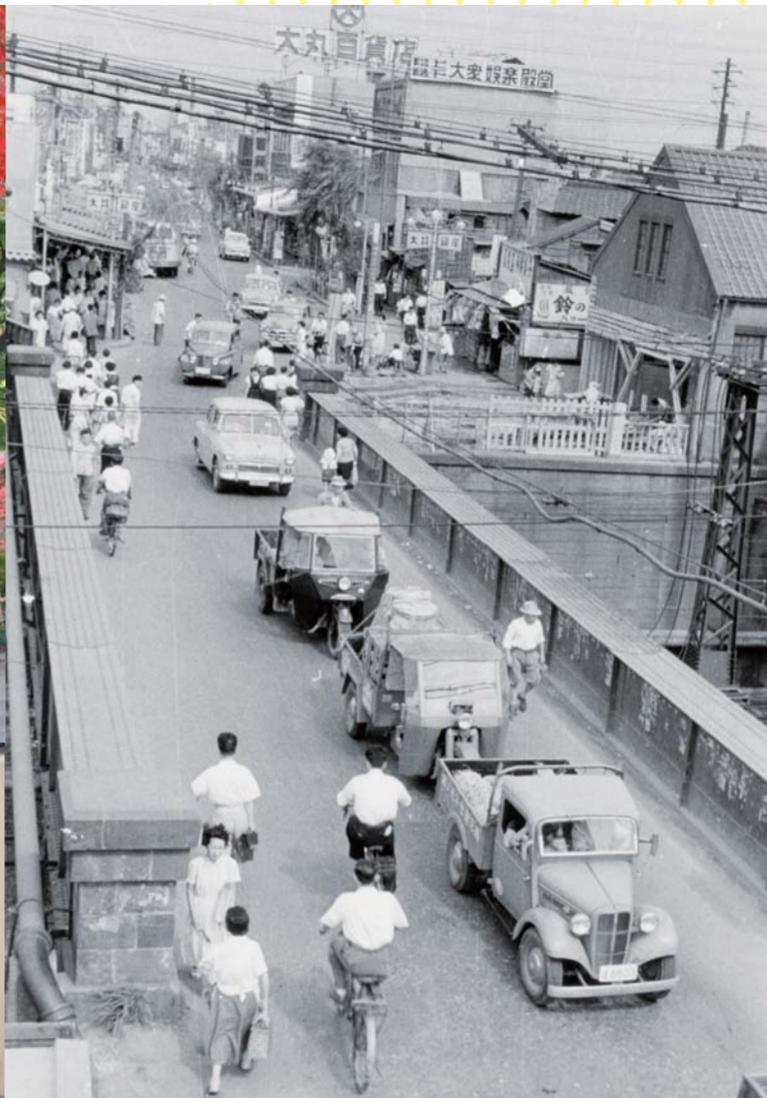
〒140-8715 品川区広町2-1-36 代表番号 ☎3777-1111 広報広聴課 ☎5742-6644 Fax5742-6870 <http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/>



いつまでも住み続けたい、 わがまちしながわ 品川区は区制70周年を迎えます

品川区と荏原区が合併し、現在の品川区が誕生したのは昭和22(1947)年。来年は区制70周年を迎えます。今号では、節目の年を前に70年という品川区の歴史を振り返るとともに、70周年記念事業として実施する「しながわ百景」のリニューアルについてお知らせします。

「しながわ百景」は、昭和62年に区民の皆さんの投票によって選ばれた、「しながわの顔」とも言える風景です。選定から30年が経ち、時代の流れの中でまちの様子も変化しています。この30年間で失われた風景を確認し、新しく生まれた風景の中から次代に受け継ぐ百景を追加します。



わ! あたらしい。
わ! なつかしい。
わがまちしながわ

目次

わがまち品川区～70年のあゆみ……………	2
しながわ百景リニューアル 「皆さんの投票で新しいまちの顔を！」……	6
しながわ百景……………	8
濱野健区長に聞く「現在の品川区ができるまで」・ 品川区政70周年記念事業……………	12



小学校は戦災を受けたため教室が不足し、午前と午後に分けての二部授業が行われた(昭和22年〈小山小学校。二部授業で順番を待つ子どもたち〉)



品川児童会館に続いて開館した荏原児童会館。現在の児童センターの前身(昭和29年)

昭和22年に発行された「品川区政ニュース第1号」。ザラ紙にガリ版刷り4ページの広報紙は、1部2〜3円で売られた。



京陽小学校の戦後再開1回目の給食は「みそ汁」(昭和23年)。米軍放出のサケ缶を入れたみそ汁に子どもたちは歓声をあげ、おかわりを重ねた。週2日だった給食も脱脂粉乳が配給になると毎日に(昭和28年〈浜川小学校の給食の配膳の様子〉)

戦後復興

戦後の人々の暮らしは、「食えること」「着ること」「住むこと」を回復させることから始まりました。食糧は著しく不足し、米にイモを混ぜたり、縁故などを頼って食料を手に入れたりして飢えをしのぎました。衣料品の統制は昭和22〜23年にはなくなり、25年から区ではミシン貸付事業を始めます。住環境はバラックに数世帯同居などの家庭が多く、建築用木材の統制が終わる25年以降、徐々に改善されていきます。



立会川沿いのバラック(昭和28年〈撮影：中村立行氏〉)

昭和20年代

(1946~1954年)

戦後の復興とともに、22年3月15日、未来へ向かって力強く歩み出した品川区

第二次世界大戦の終結から2年後、品川区と荏原区が合併し、新しい品川区が誕生。4月には直接選挙により鍋木忠正が区長に当選、続いて区議会議員選挙も実施され、新体制でのスタートを切りました。10月には、広報紙「品川区政ニュース」を発刊しています。

時代は戦後復興の真っただ中。空襲で大きな被害を受けた品川区では、取り組まなければならない課題は山ほどありました。なかでも疎開先から続々と帰京する子どもたちを受け入れる学校施設が不十分で、学校建設は子ども・先生・保護者の大きな夢でした。こうして真っ先に取り組まれたのが学校の建設です。続いて道路の修復や立会川・目黒川に架かる橋の修復など、戦災で荒れた土地の基盤整備が次々と進められていきました。



区の紋章は、公募数1,800の中から杉浦怜子さん(当時22歳・学生)の作品が選ばれた。「友愛、信義、協力」の3つを区の発展の要とし、品の字をモチーフにした推進機と風車の表現は、区のためみなき前進と勤労を象徴している(昭和27年〈区紋章入賞者と鍋木区長〉)



天王洲公園野球場オープン(昭和28年〈野球場の整備の様子。後ろに見えるのは観客席〉)



漁船が係留された鮫洲(昭和31年頃)

「もはや戦後ではない」。インフラ整備が進み区内の産業形態も変化

終戦から10年。日本は高度経済成長期へと突入し、大きな転換期を迎えます。

品川区の人口も35年には40万人を突破。膨らみ続ける人口に対応するため、区では施設建設や基盤整備、教育向上に尽力する日々が続きます。34年には福祉センター、体育館、品川文化会館が相次いで完成し、品川区の福祉・体育・文化の中心となる三大施設がそろいました。

また世間では皇太子ご成婚、60年安保闘争、東京オリンピック開催などの出来事があり、大きな変貌があった年代でもありました。国際社会に仲間入りを果たし、経済的發展をとげた一方で、品川区では東京湾の埋め立てにともない、伝統産業である漁業や海苔づくりが姿を消すなど、産業の形態も大きく形を変えていきます。

東京オリンピック

東京オリンピック開催は、東京のまちづくりからみれば、首都にふさわしい都市インフラを整備する好機となりました。区内には首都高速1号羽田線、都心と羽田空港を結ぶ東京モノレール、東海道新幹線が建設され、区が東京の南の玄関口であることを示しています。『品川区広報』ではオリンピック特集のコラムを組み、外国人への接し方や観戦マナーを掲載しました。



品川区役所前を走る聖火ランナー。聖火は大森海岸駅前から浜川中学校前—品川区役所前(現：品川保健センター)—大崎陸橋を経て目黒区へとリレーされた(昭和39年10月8日)



大井地区で小型トラックによる収集が始まり、ごみの集め方が変わりスピードアップした(昭和32年)



武蔵小山商店街アーケードが完成。「東洋一のアーケード」と話題に(昭和32年)



従来の伝統を破って皇太子妃として民間から選ばれた正田美智子様。世の中はミッチーブームに湧き、東五反田5丁目の正田邸(当時)には多くの人が詰めかけた(昭和34年〈結婚祝賀に応える美智子様〉)



首都高速1号、本町一 鈴ヶ森間開通(昭和38年〈高速道路に入っていく車の列〉)



大東京湾建設のため昭和37年に漁業権を放棄(昭和38年〈最後の海苔とり〉)

小学3年生までを対象として学童保育クラブが発足(昭和40年)



一人暮らしの高齢者宅などを定期的に訪問する活動など、高齢者福祉事業が始まる(昭和44年〈ホームヘルパーの家庭訪問〉)

都内初の試みとして、子どもたちからのアイデアを取り入れてつくられた「子供の森公園」が開園(昭和46年)



大井町駅前を走る交通安全パレード(昭和42年)

激変する都市環境と区民の暮らしに対応した区政に取り組む

大型好景気(「いざなぎ景気」)が続き、44年には国民総生産(GNP)が世界第2位に。カラーテレビ、クーラー、カー(自家用自動車)が新三種の神器といわれ、生活水準も向上しました。

その一方で、光化学スモッグなどの大気汚染、交通騒音、河川の汚染など生活環境は悪化。42年には交通事故による死傷者数が史上最高を記録しました。区ではこうした公害問題、交通安全に取り組み、様々な事業を行いました。また共働きの家庭に対して、保育・児童福祉の対応が始まります。保育園の増設、「カギっ子」の受け皿となる児童センターや学童保育クラブの整備、公園の建設を急ピッチで進めました。

27年から都知事の同意を得て区議会が区長を選任する「区長選任制」になっていましたが、47年には23区で初めて、区民投票によって区長候補を決める「区長準公選」が行われました。



旧品川区と旧荏原区の境付近、大井町駅近くに総合庁舎(現在地)が完成。これにより、品川・荏原の二元行政が解消し、品川区政は名実ともに一元化した(昭和43年)

都市問題

人口・工場数などのピークを迎えた品川区は、昭和40年代に入り、交通安全と公害問題という都市問題を抱えることとなります。昭和42年には「交通安全区宣言」をし、ガードレールや道路標識、反射ミラーの設置などを進めました。公害対策については公害係を新設し、実態調査と事業者への働きかけを行い、改善に努めました。



緑豊かな生活環境を取り戻そうと「花と緑を広める運動」がスタート。その一環として「花と植木の即売会」が行われた(昭和47年)

昭和40年代

(1965~1974年)



夕方の第二京浜道路。戸越3丁目付近(昭和46年)



建設中の八潮パークタウン。翌年から入居開始(昭和57年)



公募によって選ばれた歌詞に区内在住の作曲家・服部良一氏が曲をつけ(写真は直筆楽譜)、歌手・都はるみさんが歌いレコード化された「品川音頭」(昭和53年〈品川音頭を踊る区民〉)



シルバー人材センターの前身となる「品川区高齢者事業団」設立(昭和52年〈ふすま張り作業〉)



アメリカ合衆国ポートランド市と姉妹都市提携(昭和59年〈ポートランド市との調印式〉)

昭和50年代

(1975~1984年)

区長公選、自治権拡充した特別区

昭和50年4月1日施行の改正地方自治法により、特別区の役割は大きく3つの点で変わりました。一つ目は選挙によって区長を選ぶ区長公選。二つ目は業務内容が市に準じるようになったこと、三つ目は職員が区の固有の職員になったことです。これによって防災やまちづくり、保健所業務など、区の実情と区民のニーズに沿った業務が行いやすくなりました。



区長選挙の投票をする区民(昭和50年)

まちづくりの指針となる「品川区長期基本構想」を策定

50年は選挙によって区長を選ぶ「区長公選」で幕を開けるとともに、保健所などが都から区へ事務移管されるなど、特別区の自治権が拡充された「区政元年」とも呼ばれる記念すべき年でした。その一方で石油ショック以降の不況による歳入の落ち込み、公共事業の負担増により、多くの自治体で財政危機が深刻化し、品川区でも経費の削減などの対策に追われました。

こうしたなかで51年には、住みよいまちづくりの指針となる「品川区長期基本構想」を策定。これに基づき都市再開発、障害者・高齢者福祉の充実などに計画的に取り組まれました。

50年代も半ばになると人々の生活にはゆとりが生まれ、ライフスタイルも多様化していきます。



第1回「区民まつり」を開催(昭和54年〈竹馬競争〉)



第1回「身体障害者レクリエーション大会」を開催(昭和56年)



天王洲アイランド「シーフォートスクエア」完成 (平成4年)



大ホールと各種区民施設を併設した総合区民会館「きゅりあん」が開館 (平成元年)

62年、区民の強い要望を受けて全面開園したしながわ区民公園。4年後には公園内に「しながわ水族館」が開館。オープン後6カ月余りで入館者100万人を突破した (平成3年)



大井町駅前に「平和の誓い」像を設置。前年には、核兵器の廃絶と恒久平和を願う「非核平和都市品川宣言」を表明した (昭和61年)

昭和60 〜平成4 年 (1985~1992年)



平成に入るとリサイクルへの意識が高まり、資源の回収が始まる (平成2年〈紙パック・アルミ缶のリサイクル拠点回収〉)

昭和から平成へ。再開発事業の完成でまちの表情も変化

昭和は天皇崩御により昭和64年で幕を閉じ、元号は平成となりました。61年から始まったバブル景気で株と土地への投機熱が加速し、その価格は実体を大きく離れ急上昇。しかしバブルは5年ほどではじけ、その後は深刻な不況が訪れます。

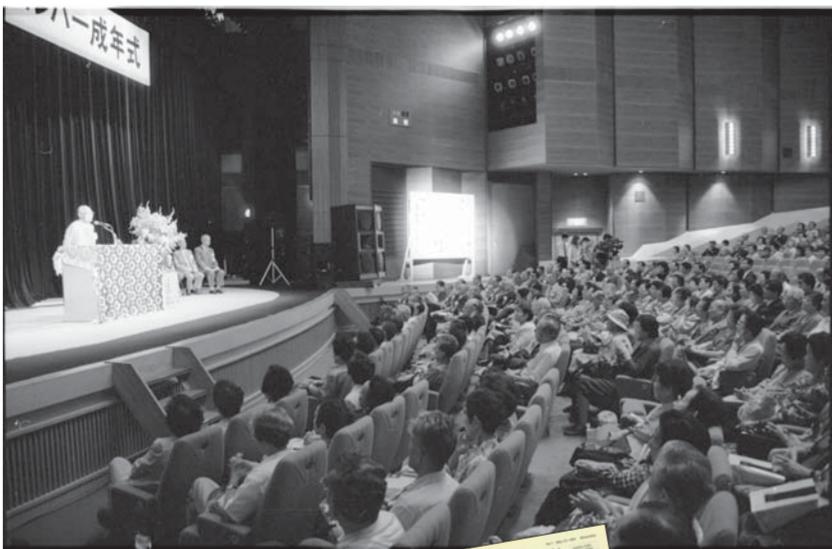
区では高齢化の進行に対応して特別養護老人ホームの建設、有償在宅福祉サービスの開始など、高齢者施策の基盤整備を本格化していきます。一方、50年代から区内で進んできた再開発事業は形となって現れ、西大井や大崎、天王洲などでまちの表情が大きく変わり始めました。61年の西大井一丁目地区に続き、翌年には大崎駅東口第一地区 (大崎ニューシティ) の事業が完了。また平成元年には大井町駅東口第一地区の事業完了により、総合区民会館「きゅりあん」が誕生しました。

バブル期の品川区

空前絶後の好景気といわれるバブル景気ですが、都市部では地価の高騰による人口流出、工場の移転・転廃業など負の影響を多くもたらし、また街並みも急激に変わっていきました。そうしたなかで人々は、古い街並みや伝統工芸、商店街など地域の良さを見直し、地域を活性化する活動が始まりました。



昭和63年には「品川区伝統工芸保存会」が結成された



高齢者施策充実の一環として、古希を迎えた方を対象とした第1回「シルバー成年式」を敬老の日を前に開催 (平成5年)

外国籍の方も暮らしやすいまちづくりをめざし、英字広報紙を発刊 (平成6年)



品川区の防災対策

平成7年1月17日「阪神・淡路大震災」が発生。死者数6,000人超、被害総額約9.6兆円という大きな被害をもたらしました。これを受けて、8年には「品川区地域防災計画」を見直し、小・中学校などを避難所と位置づけ、仮設トイレ・備蓄倉庫の設置、プールのろ過器配備などを開始しました。

阪神・淡路大震災の前年には、地震を体感できる3Dシアターなどを設置した「防災センター」を開設 (平成6年)



平成5 〜10 年 (1993~1998年)

高齢化社会への対応など、時代に即した取り組みを進める

昭和50年代から徐々に進行していた高齢化。平成5年には、65歳以上の人口は0~14歳の人口を上回り、11年には65歳以上が総人口の約16%を占めるまでになります。区では5年に「品川区高齢社会保健福祉総合計画」(いきいき計画21)を策定し、高齢者住宅や特別養護老人ホームの建設、24時間ホームヘルプサービスなどを開始しました。

一方、保育サービスの充実にも取り組み、延長保育や夜間保育、都内初の保育園の入園予約制度などをスタート。保護者の就労形態の多様化に対応しました。また5年には都内で初めて「人権尊重都市品川宣言」を制定し、「しながわ人権のひろば」を開催しています。

10年には、区内の人口が12年ぶりに増加に転じました。



社会福祉協議会が設置・運営する「品川介護福祉専門学校」が開校。定員40人に対して200人の応募があった (平成7年〈実習風景〉)



65歳以上の方を対象とした「しながわ出会の湯」がスタート。銭湯で健康体操やカラオケを楽しんだあと、仲間とともに湯船につかり交流を深める (平成7年)



「ケーブルテレビ品川」が開局し、地元密着型の情報を提供する「品川区民チャンネル」の放送が始まる (平成8年)



しながわ中央公園が全面開園（平成16年）



子どもたちが放課後や土曜日などに学校で学習・スポーツ・遊びなどができる「すまいるスクール」を第二延山小学校に開設（平成13年）



特別区制度改革の一環として都から移管された清掃事業。ごみの各戸収集を一部で開始（平成14年）



保育園と幼稚園の機能を併せ持つ区独自の幼保一体施設「二葉すこやか園」が開園（平成14年）

20世紀から21世紀へ。新しい時代の幕開け

12年には介護保険制度がスタート。特別区制度改革や地方分権による自治の進展を踏まえ、区では13年に「第三次品川区長期基本計画」を策定し、高齢者福祉、子育て支援、教育改革などの事業を中心に、「品川区の個性と特色」を生かした創意あふれる事業を展開するべく、取り組みが始まりました。また、区誕生当時から鉄道網は発達していましたが、14年のりんかい線開通で、区内の鉄道は14路線、延べ40駅となり、新宿・埼玉方面と臨海副都心・千葉方面を結ぶ広域ネットワークが形成されました。

18年、5期19年間にわたり卓越した行政手腕を發揮してきた高橋久二区長が急逝。その意思を受け継ぎ、濱野健新区長が就任しました。来る区制60周年を前に、「いつまでも品川区に住み続けたい、住んでいてよかった」まちづくりが新たにスタートしました。



〈最新版（まもるっち）〉



濱野区長初登庁（平成18年）

教育プラン21

平成11年、教師の意識改革と学校教育の質の向上をめざし、品川の教育改革「プラン21」を策定しました。このプランは、学校教育では何ができるかを考え策定し、各学校が児童・生徒や地域の特性を生かした特色ある学校づくりを行い、学校の活性化を図ることをねらいとしました。これに基づき「学校選択制」「外部評価制度」「小中一貫教育」などを進めました。



公立で全国初の施設一体型小中一貫校「日野学園」が開校（平成18年〈日野学園の開校式〉）



子どもたちが社会性を身につけるための経済学習体験施設「スチューデント・シティ」を八潮南小学校に開設（平成15年）



皇后陛下のご実家・正田邸跡地を区立公園「ねむの木庭」として整備し、平成16年に開園（平成17年〈天皇・皇后両陛下のご訪問〉）

平成11年

(1999～2007年)

全国初の「近隣セキュリティシステム」を導入。緊急時に児童が専用子機「まもるっち」のスイッチを引くと保護者や学校、付近の協力者などに緊急通報が送信される（平成17年）



平成20年より日曜開庁開始。27年には利用者が20万人を達成（平成27年）



品川区民芸術祭が始まる（平成22年）



国文学研究資料館跡地に「文庫の森」開園（平成25年〈文庫の森の桜〉）

平成20年

(2008年～)

いつまでも住み続けたいまちであるために…

20年には新しい「品川区基本構想」を策定。そのめざす姿を「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」として、区民と区との協働によるまちづくりの具体的な取り組みが始まりました。こうしたなか、23年3月11日、東日本大震災が発生。地域コミュニティのあり方や防災対策、木造住宅密集地区の解消や交通網などの都市インフラの整備など、人々の生活と品川区政のあり方を見直す転換期となりました。

2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定し、品川区も3つの競技で会場となることが予定されています。開催に向けて区は、一層安全安心なまちをめざしていくとともに、オリンピック開催後10年の東京の姿として予測されている人口減少、超高齢化社会に備え、誰もが快適に住めるまちづくりを進めています。



平成27年度からスタートしたシティプロモーション（平成27年）



防災センターをリニューアルして「しながわ防災体験館」を開館。新しい防災課キャラクターに「ジージョくん」が決定（平成28年〈リニューアルオープン式典〉）



武蔵小山創業支援センター（平成22年開設）に続き、品川産業支援交流施設「SHIP」が開館（平成27年）

新しい品川区基本構想

新基本構想のもっとも大きな特徴は、「区民と区との共同指針」とし、策定までさまざまな形で区民が参加して決定されていったことにあります。また将来像は、区民から公募した案をもとに「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」とし、基本理念に「暮らしが息づく国際都市、品川区をつくる」「伝統と文化を育み活かす、品川区をつくる」「区民と区との協働で、『私たちのまち』品川区をつくる」を掲げています。



町会・自治会の活動を応援する「品川区町会および自治会の活動活性化の推進に関する条例」を制定（平成28年〈濱野区長に答申する「町会・自治会のあり方と区との協働に関する調査研究委員会」の名和田委員長〉）



皆さんの投票で 新しいまちの顔を！

投票期間
9月1日(木)～10月11日(火)

現百景は8ページから紹介しています

70周年にあたり、新たな風景も加えたしながわ百景へ

「しながわ百景」は、区制40周年と区民憲章制定5周年にあたる昭和62年に、「みつめよう今、わがまち」をキャッチフレーズに品川の「生活」「歴史」「風土」などを伝える風景を区民の皆さんから推薦していただき、投票で選定されました。

選定から30年が経ち、時間の経過とともに街並みは変わり、姿を消

した百景もあります。そこで区制70周年を機に、姿を消した風景に替わり新たな風景を加えて、「しながわ百景」をリニューアルします。

この30年間で新しく生まれた風景から選んだ次の候補地20景の中に、いいなと思う風景があれば投票してください。また、候補地以外の推薦もお待ちしております。

問い合わせ

広報広聴課

☎3771-2000

しながわ百景
候補地

20景



1 大井コンテナふ頭の風景 (八潮2)

全長2,354mの広大なコンテナターミナル。潮風公園側からは、赤や青のコンテナやクレーンと、天王洲一帯の建物があり風景を望むことができる。



2 きゅりあん (品川区立総合区民会館) (東大井5-18-1)

平成元年に開館。区内最大規模の大ホールなどを擁する区民の文化・芸術活動の拠点であり、商業施設を含む複合施設として大井町駅前のランドマークである。



3 五反田ふれあい水辺広場 (東五反田2-9-11)

目黒川沿いの親水公園。川に臨む広場やカフェスペースもあり、憩いの場となっている。



4 桜新道の桜並木 (南大井)

薄いピンク色と濃いピンク色の2種類の八重桜が大きく育ち、美しいアーチをかける。X状の歩道橋「さくら橋」からの眺めもすばらしい。



5 鮫洲運動公園 (東大井1-4-11)

北側は、子どもたちのアイデアを取り入れたユニークな遊具がある遊戯ゾーン。南側は多目的広場となっている。子どもたちのアイデアがたくさんつまった公園。



6 潮風公園 (東八潮)

船と飛行機が見える海辺のプロムナード。2020年東京オリンピックのビーチバレーボール開催予定地。東京湾の美しい夜景も印象的。



7 しながわ宿場まつり (北品川～南品川)

東海道第一の宿場として栄えた品川宿周辺で、平成2年から続くまつり。豪華な衣装をまとった「おいらん道中」や「江戸風俗行列」などのパレードは、江戸情緒を感じさせる。



8 しながわ水族館 (勝島3-2-1)

しながわ区民公園内にある水族館。ロマンチックなトンネル水槽や間近で見られるイルカショー、アザラシショーが大人気。



9 しながわ中央公園 (西品川1-27他)

噴水、芝生、英国風のロックガーデンがある広場のほか、スポーツ広場や健康遊具を設置したトリム広場がある。季節を感じる草花が美しい。



10 しながわ花海道 (東大井1・2、勝島1)

地元の商店街などが中心となり「勝島運河の土手をお花畑にしよう」を合い言葉に、勝島運河の土手約2kmが花畑になった。春には菜の花、秋にはコスモスが花を咲かせる。



11 新幹線車両基地 (八潮3)

首都高速湾岸線に沿うようにして、新幹線の車両が集まる「大井車両基地」。平成15年には、東海道新幹線品川駅が開業。大井中央陸橋からは、新型の新幹線が休む姿も見渡せる。



12 神明児童遊園
(二葉1-1)

平成22年に新公園として開設。下神明駅の近く、地元の人たちに親しまれている通称「タコ公園」。子ダコと、すべり台になっている親ダコは、いつも子どもたちであふれている。



13 スクエア荏原
(荏原4-5-28)

きゅりあんに次ぐ2館目の総合区民会館として、旧平塚小学校跡に建設、平成25年に開館した。区民の文化・芸術・スポーツ活動や交流の拠点となっている。



14 立会川の坂本龍馬像
(東大井2-25)

黒船警固のため土佐藩下屋敷に通っていたという若き日の龍馬のブロンズ像。新浜川公園には、復元された浜川砲台もある。



15 天王洲エリアの水辺の風景
(東品川2)

天王洲運河に沿って作られたボードウォーク、ドラマロケなどでおなじみの「天王洲ふれあい橋」、対岸からの夜景も美しい。



16 ねむの木の庭
(東五反田5-19-5)

皇后陛下のご実家・旧正田邸跡地に開園した区立公園。美智子皇后にちなむバラ「プリンセス・ミチコ」をはじめ、様々な花や草木が四季を通して楽しめる。



17 東品川海上公園
(東品川2-6他)

くじら型の滑り台、運河沿いのボードウォークやミッフィーの花壇などがある、天王洲南運河に面した公園。運河をまたぐアイル橋、ポンプ所屋上の庭園も美しい。



18 文庫の森
(豊町1-16-23)

国文学研究資料館の跡地にできた、既存の池や樹木をいかし、防災機能を備えた公園。四季の花々が訪れる人々を楽しませ、区民の憩いの場となっている。



19 目黒川の桜
(西五反田、東五反田、大崎、北品川)

かつて柳が覆った目黒川の両岸が、桜の名所に生まれ変わった。春には美しい桜、冬の夜には約21万球のLED電球でピンク色に染まった桜並木を眺めることができる。



20 目黒のさんま祭り
(目黒駅東口誕生八幡神社周辺)

古典落語「目黒のさんま」にちなみ、平成8年から始まった祭り。岩手県宮古市から届けられる旬のさんまの炭火焼きが振る舞われ、大勢の人でにぎわう。



しながわ百景リニューアル投票方法

**候補地20景より
3つまで選んで投票!**

昭和62年に区民投票で決定した「しながわ百景」。時間の経過とともに姿を消した風景に替わる風景を選定し、「しながわ百景」をリニューアルします。

候補地20景から、大切にしていきたいと思う風景*を3つまで選んで投票してください。候補地はこの30年間で新しく生まれた風景から選びました。候補地以外の推薦もお待ちしています。

- *大切にしていきたい風景とは
- ・親しみやすい自然がある風景
 - ・品川の歴史を感じさせる風景
 - ・建物や道、通りなどが魅力的な空間を作っている風景
 - ・暮らしの中で活気のある風景

- 投票期間** 9月1日(木)～10月11日(火)
- 投票方法** 【投票所】 区役所、地域センター、文化センター、図書館で直接投票
【はがき】 広報広聴課へ郵送 (10月11日消印有効)
【区ホームページ】 電子申請によるインターネット投票
- 選考方法** 投票結果とご推薦いただいた風景を基に、選考委員会で検討のうえ決定します。
- 発表** 平成29年1月1日『広報しながわ』特集号、区ホームページ (予定)

※ご記入いただいた個人情報は、記念品の発送にのみ使用します。
※投票参加者の中から抽選で50人に、区制70周年記念「しながわ百景」オリジナルフレーム切手(予定)をプレゼントします。
※当選者の発表は、平成29年1月1日以降記念品の発送をもって代えさせていただきます。

問い合わせ・郵送先

広報広聴課 (☎140-8715品川区役所 ☎3771-2000Fax5742-6870)

区制70周年記念 しながわ百景リニューアル投票用紙

※3つまで投票できます。

番号			
----	--	--	--

住所	〒	
氏名		男・女
年代	20歳未満・20代・30代・40代 50代・60代・70歳以上	

候補地以外に推薦したい風景がある場合、下記に記入し、封筒にこの投票用紙と写真等を同封して送付してください。
※送付いただいた写真等は返却しません。

推薦風景：
所在地：
理由：

●はがきの裏面にはがれないようにしっかり貼ってご使用ください。

しながわ百景

特別区制施行40周年と区民憲章制定5周年にあたる昭和62年に記念事業として選定された「しながわ百景」は、区民の皆さんの投票によって選ばれたものです。この間約30年にわたり親しまれてきました。これからも“わがまちしながわ”の表情を伝えていく風景です。

●掲載の写真は「しながわ百景」選定当時のものです。

品川地区



稲荷堂
北品川1-14-7ハツ山公園



旧東海道のにぎわい
北品川1・2



品川浦とつり船
北品川、東品川1



虚空蔵尊（養願寺）の緑日
北品川2-3



聖蹟公園（本陣跡）
北品川2-7-21



鎮守橋から新緑の荏原神社を望む
北品川2-30



荏原神社の天王祭〈6月〉



品川神社
北品川3-7-15



品川神社の例大祭〈6月〉



品川神社の太々神楽



東海七福神めぐり



板垣退助の墓
北品川3-7-15高源院墓地



権現山公園
北品川3-9-5



桜の中での入学式
北品川3-9-30品川学園



子供の森公園
北品川3-10-13



ハツ山橋
北品川4



新ハツ山橋から品川教会方向を望む
北品川4



原美術館
北品川4-7-25



桜の名所の御殿山
北品川4-8



東海寺大山墓地
北品川4-11-8



清水稲荷神社
北品川5-9-18



利田神社と鯨塚
東品川1-7-17



寄木神社
東品川1-35-8



天王洲公園野球場とナイター
東品川2-5-42



丸みのある建物が特徴的なコナミスポーツクラブ本店
(当時は日産スポーツプラザ) 東品川4-10-1



妙蓮寺・高木正年の墓
南品川1-1-1



天妙国寺の山門と無縁仏
南品川2-8-23



天妙国寺の墓地



品川寺
南品川3-5-17



品川寺の江戸六地藏



品川寺の梵鐘



海雲寺と千躰荒神
南品川3-5-21



清光院と奥平家墓地
南品川4-2-35



エンジュの並木のゼームス坂通り
南品川5・6



二日市公園
南品川6-7-15



赤レンガ造りの旧変電所
(広町1-6)



大崎地区



花房山の桜並木
上大崎3-10



清泉女子大学(旧島津公爵邸)
東五反田3-16-21



池田山公園
東五反田5-4-35



五反田公園の桜並木
東五反田5-24-6



かむろ坂
西五反田4



氷川神社とわき水
西五反田5-6-3



大崎駅前再開発ビル
大崎1



居木神社と居木橋貝塚
大崎3-8



大井地区



八幡神社
東大井1-20-10



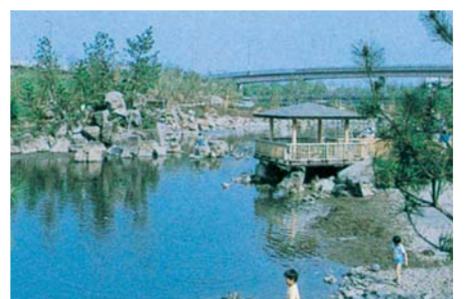
立会川河口堤防船だまり
東大井2



来福寺の境内
東大井3-13-1



鈴ヶ森刑場跡と大経寺
南大井2-5-6



しながわ区民公園
勝島3-2-2



大井の水神社
南大井5-14-9



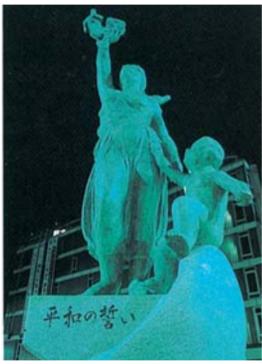
大井水神公園
南大井5-16、6-14



大井競馬場とトゥインクルレース
勝島2-1



大井競馬場前駅と運河、モノレール
勝島2



平和の誓い像
大井町駅南口前



大井どんたく夏祭り〈8月〉
大井町駅前中央通り



品川歴史館
大井6-11-1



鹿嶋神社
大井6-18-36



大森貝塚
大井6-21



西大井駅とその周辺
西大井1



養玉院(如来寺)
西大井5-22-25



大仏の千灯供養
西大井5-22-25



伊藤博文公墓所
西大井6-10-18



JR東日本東京総合車両センター
広町2



林試の森
小山台2-6



武蔵小山商店街のにぎわい
小山3、荏原3



小山両社祭の神輿連合渡御〈9月〉



星薬科大学
荏原2-4-41



西小山桜並木通り
荏原5、小山5・6



小山八幡神社
荏原7-5-14



戸越銀座商店街のにぎわい
(平塚1~戸越1・2)



旗岡八幡神社と鎌倉道
旗の台3-6-12



法蓮寺
旗の台3-6-18



旗の台伏見稲荷神社
旗の台5-15-2



カナリヤ坂
旗の台5



中延小学校の大楠と中延の森
中延1-11-15



中延商店街のにぎわい
東中延2、中延3



戸越八幡神社
戸越2-6-23



戸越公園
豊町2-1-30



上神明天祖神社
二葉4-4-12



東京タワー、モノレールと海の風景
八潮1



みなとが丘ふ頭公園
八潮3-1



八潮橋
八潮5～東品川4



八潮団地から見える夕焼け
八潮5



かもめ橋
八潮5～勝島1



かもめ橋から京浜運河を望む
八潮5～勝島1



東京モノレールと八潮団地
八潮5、勝島1



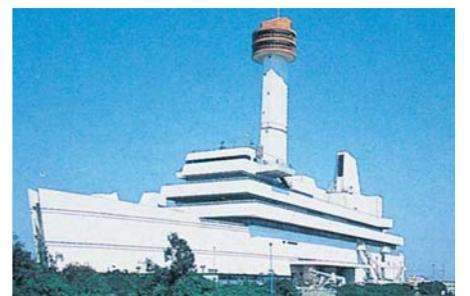
八潮団地と緑道公園
八潮5



スポーツの森 (大井ふ頭中央海浜公園)
八潮4-1



なぎさの森 (大井ふ頭中央海浜公園)
八潮4-2



船の科学館
東八潮

時代の流れの中で
失われた風景



目黒川兩岸の緑と赤レンガ工場
(南品川4)
赤レンガ工場はなくなりました。



路地裏と駄菓子屋
(南品川5)
駄菓子屋はなくなりました。



目黒川の柳
(西五反田1)
柳は桜に植え替わりました。



日本酸素記念館と庭園
(西五反田)
日本酸素記念館は山梨県へ移転しました。



時代屋
(大井4)
時代屋はなくなりました。



武蔵小山商店街モニュメント
(小山3)
モニュメントはなくなりました。



船の科学館からの眺め (東八潮)
本館展示を休止したため見るができなくなりました。



北品川の古い民家の家並み
(北品川1)
古いたたずまいの家並みが減りました。



TOCとゆうぼうとのある街並み
(西五反田7、8)
ゆうぼうとは閉館しました。



海徳寺境内 (南品川1)
「花の寺」として選定されましたが、桜などが減りました。



濱野健区長に聞く 現在の品川区が できるまで

中世には物流の要となる海と川を、江戸時代には、江戸近郊で最大の「町場」であった品川宿を擁していた品川区。江戸幕府が倒れ、明治元（1868）年に明治政府が成立すると、地域の枠組みも少しずつ変わっていきます。そして現在の品川区ができるのは明治維新から約80年後、昭和22（1947）年のことです。品川区成立までの道のりを濱野区長に聞きました。



Q1 明治以降の東京と品川について教えてください。

明治維新後、江戸は東京府となり、その後いくつかの変遷を経て明治22年、かつての江戸市中は東京市、その近郊を含めたエリアが東京府となりました。「東京の変遷」の図1を見ていただくとわかりやすいでしょう。東京市は15区からなり、今の品川区域は東京府6郡のひとつ荏原郡内の4つの町村となりました。

ちなみにそれ以前、明治4年の廃藩置県までは「品川県」が存在しました。江戸時代の代官支配地が、明治新政府になって「品川県」として引き継がれたのです。その範囲は現在の東京23区の南部から西部、さらに埼玉県の一部で、品川宿に県庁が置かれる予定だったそうです。



明治後期の品川宿（提供：平野義治氏）

Q2 では品川は、明治時代には「東京府荏原郡」であったわけですね。

そのとおりです。手紙を送る時には東京府、あるいは府下荏原郡品川町や荏原郡大井村と、住所を書いたわけです。

その後東京市近郊は人口が増え続け、それに対応するため、周辺町村を東京市に編入することが明治末年から検討されてきました。そして昭和7年、近郊の町村を合併し、35区からなるいわゆる大東京市が成立（図2参照）。品川区域には、品川町・大崎町・大井町が人口17万9,496人の品川区、荏原町は1町で人口13万2,108人の荏原区が誕生しました。



大ブームとなった「東京音頭」。35区からなる大東京市は人口約551万人。ニューヨーク市（昭和5年で約693万人）に次ぐ、世界第二の都市となった（昭和8年。提供：三光堂角田商会）

皆さん、盆踊りで必ず流れる「東京音頭」はご存じですね。昭和8年夏には「東京音頭」が爆発的に流行したんですよ。大東京の市民になったうれしい気分が伝わってくるエピソードですね。

東京の変遷

東京府6郡と東京市15区（明治22年）



図1

東京市35区の新設20区（昭和7年）

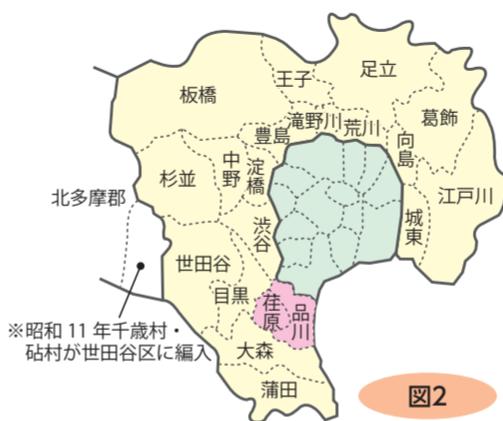


図2

東京都23区（昭和22年）



図3

Q3 戦争の間にはさみ、現在の品川区はどうやって誕生するのでしょうか。

戦争によって東京区部の人口は大きく減少してしまいました。品川区でも、終戦から約1年経っても、昭和15年と比べて品川区で約半数、空襲で大きな被害を出した荏原区では3分の1強の人口しかありませんでした。そこで東京都では、35区を22区にする案を出し（*）、昭和21年に策定されます。これによって品川区と荏原区を統合し、新しい区とすることが決まりました。

*以下の方針のもとで区域が整理された

- ①人口は各区20万人とする。
- ②1区は10キロ平方メートル以上を適当とする。
- ③旧15区に偏在していた盛り場や娯楽街を改め、各区に中心となる場所を設ける（新品川区では五反田が想定された）



空襲で焼失した戸越公園踏切近くの荏原温泉（後の長寿温泉）焼け跡（昭和20年。撮影：中村立行氏）

Q4 統合までのその経緯を教えてください。

統合決定までには、都の一方的な合併案に反対する空気もあり、なかなか議論がまとまらなかったと聞いています。結局、両区の統合後は区域の中央に新たに区役所を作ることを条件に、合併が決まりました。また新しい区名については、荏原区会で品川区が適当であると決議され、品川区はこれを受ける形となりました。区は特別区とされ、区長・区議会議員とも選挙で選出。東京都の内部団体という扱いではありましたが、現在に続く一歩を踏み出しました。

昭和22年3月の誕生当初、特別区は22区。昭和22年8月に板橋区から練馬区が分離独立し、現在の23区となったのです。



空襲で焼失した荏原区役所（昭和15年頃）。戦後は小学校の一角に仮庁舎を置いていて、昭和22年度に現在のスクエア荏原（荏原4丁目）の場所に新庁舎を建設する予定だった

「品川区史2014—歴史と未来をつなぐまちしながわ」

写真・図版を約1,000点掲載した新しい品川区史です。データと映像を収録したDVDディスク2枚付きです。



販売場所／区政資料コーナー（第三庁舎3階）、総務課（本庁舎5階）
販売金額／4,500円
問い合わせ／総務課 ☎5742-6624

品川区制70周年記念事業

品川区制70周年記念式典

日程／29年3月21日（火）
会場／きゅりあん大ホール
内容／区政功労団体感謝状贈呈式、講演会、コンサートなど
問い合わせ／総務課 ☎5742-6624

しながわ環境ミュージカルの開催

公募した小学生を中心に、環境啓発を図るミュージカルを開催します。
日程／29年1月22日（日）
会場／スクエア荏原ひらつかホール
問い合わせ／環境課 ☎5742-6755

品川区制70周年記念パネル展

品川区の70年を年代別に写真で振り返るパネル展を開催します。
日程／10月（昭和20年代）、11月（昭和30年代）、12月（昭和40年代）、29年1月（昭和50年代）、2月（昭和60年代、平成前期）、3月（平成後期）
会場／区役所本庁舎3階
問い合わせ／総務課 ☎5742-6624

ラッピングバスの区内走行

区内を走行するバスの車体をラッピングしPRします。
日程／10月～29年3月（予定）
問い合わせ／総務課 ☎5742-6624